

経営比較分析表（令和6年度決算）

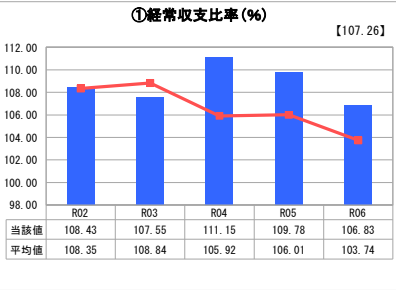
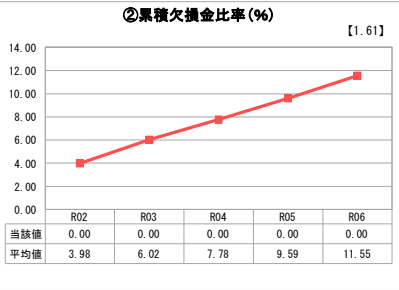
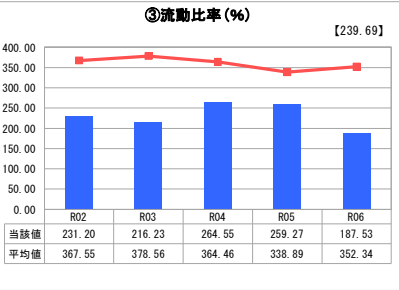
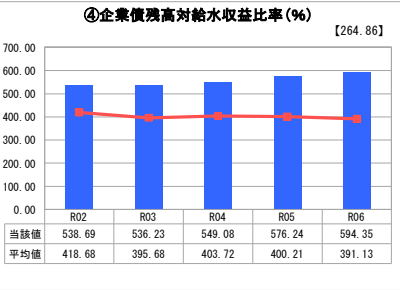
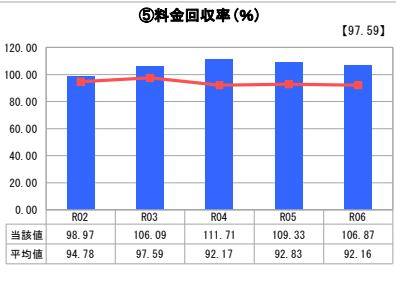
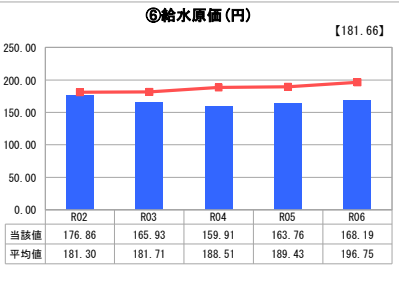
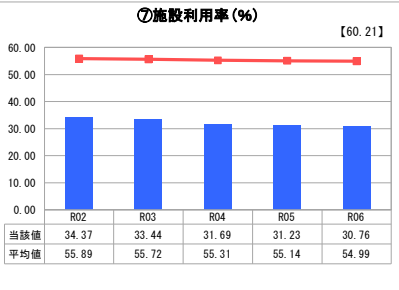
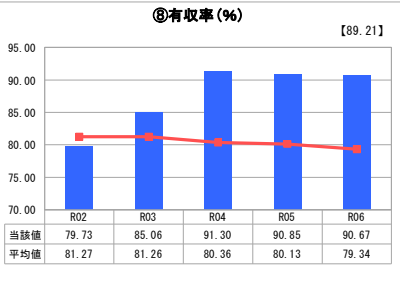
静岡県 下田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	52.78	97.79	2,651	

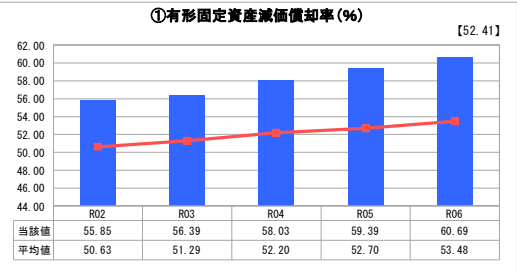
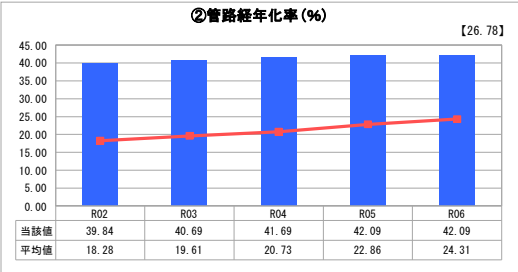
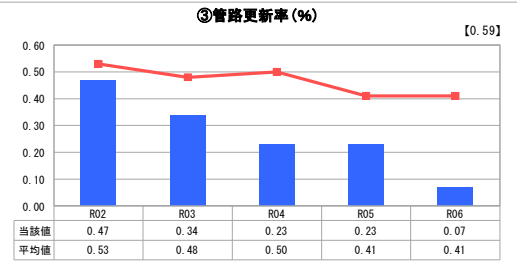
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,282	104.38	184.73
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,595	26.00	715.19

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、令和3年度のみ類似団体平均値を下回ったが、毎年度100%以上を維持し類似団体と比較しても高い水準にある。

③流動比率は、流動資産・流動負債ともに減少し、類似団体と比較すると低い水準にある。

④企業債残高対給水収益比率は、類似団体及び全国平均を大きく上回っているため、支払能力を高めるための経営改善を進めていく必要がある。

⑤料金回収率は、一般会計補助金（新型コロナウイルス感染症対応地方創成臨時交付金）を充当した令和2年度以外は100%を超え、類似団体及び全国平均を上回っている。

⑥給水原価は、類似団体及び全国平均と比較すると抑えられているが、諸物価の高騰により現状での経営を続けた場合、数値が悪化することが予想されるため、投資の効率化や維持管理費の削減に努めていく必要がある。

⑦施設利用率は、観光地である本市は繁忙期の入込客数の水需要に対応しなければならず、給水人口に対して施設規模が大きいことから30%台と類似団体を大きく下回っている状況である。将来の更なる人口減少等を鑑み、施設の統廃合やダウンサイジング等を進めていく必要がある。

⑧有収率は、前述の補助金を充当した令和2年度以外は類似団体を上回っている状況である。

以上より、経営の健全性については、毎期黒字経営が続く、収支状況はおおむね良好のように見えるが、他団体に比較すると依然として企業債への依存性が高く、資金繰りが厳しい状況にある。経営の効率性の面では、施設規模等が夏季等の繁忙期を除いては非効率な経営状況を余儀なくされている。

2. 老朽化の状況について

①現在整備している新規水場への投資を優先的に行っていることから既存施設の更新工事が先送りされている状況となっており、施設の老朽化が進み、減価償却率は年々上昇している。

②③管路についても更新が先送りされている状況である。管路更新需要のピークはまだ迎えていないものの経年化率・更新率ともに類似団体及び全国平均よりも非常に低い水準にあるため、更新にかかる投資を増やすなど早急な対応が必要である。

全体総括

今後の経営環境は、老朽化する施設の更新需要が年々増加していく反面、人口減少等により収益性は低下し、ますます厳しい状況になっていくことが予想される。

本市は、現時点での収支状況はおおむね良好のように見えるが、経営の効率性や資産の老朽化については他団体よりも厳しい水準となっており、更に人件費や諸物価の高騰に対応するためにも水道料金の改定は避けては通れない状況である。

今後も安定した水の供給を維持していくためには、更新需要と収支のバランスを取りながら経営改善を進めていかなければならない。